



環境活動

紙媒体とデジタル媒体の融合を推進し、事業活動における環境負荷低減と限りある資源の有効活用に努めています。また、生物多様性および生態系の保護を含めた環境保全のため、原材料、省エネルギー、大気への排出、排水および廃棄物などについて、TMS（竹田マネジメントシステム）の活動として管理し、環境汚染の予防に努めています。

竹田 i P グループ環境方針



竹田 i P グループは、企業理念「持続可能な社会に貢献すべく、溢れるほどの情熱 (passion) をもって、革新 (innovation) しつづける」を実現するために、すべての社員がとるべき行動を示した「竹田 i P グループ行動規範」を定めています。この「竹田 i P グループ行動規範」において「環境保全」の考えを明記しています。

そして、私たちの使命である「お客様の課題解決を通じて広く社会に貢献する」ために、「竹田 i P グループ環境方針」を定め、持続可能な社会を実現するために、事業活動と環境保全の両立を目指しています。

竹田 i P グループ環境方針(項目のみ抜粋)	
1. 適用法令の遵守	6. 生物多様性の保全
2. 気候変動の緩和	7. 環境負荷低減の提案
3. 環境汚染の予防	8. 推進体制
4. 資源の有効活用	9. 情報開示
5. 水資源の保全	

詳しくは当社ホームページをご覧ください。
https://www.takedaip-hd.co.jp/sustainability/environmental_policy/

》 マネジメントシステムの状況

ISO14001 認証取得

12.4 12.5

	竹田印刷(株) 竹田 i Pホールディングス(株)	日栄印刷紙工(株)	竹田東京プロセスサービス(株)	(株)プロセス・ラボ・ミクロン
認証取得日	2000年12月25日	2015年11月2日	2004年7月16日	2005年6月28日
認証登録番号	07965-B		12915-B	09147

監査の状況

6.3 7.3 8.4 9.4 11.6 12.4 13.3 14.1 15.2

実施項目	内部監査	内部監査員に対する 研修会	内部監査 (2023年度) 「不適合」	内部監査 (2023年度) 「観察事項」 「改善の機会」	外部審査 「特定された 改善の機会」
竹田印刷(株) 竹田 i Pホールディングス(株)	年2回	年1回	3件	79件	15件
日栄印刷紙工(株)	年2回	年2回	1件	16件	1件
竹田東京プロセスサービス(株)	年1回	都度外部研修を実施	0件	4件	3件
(株)プロセス・ラボ・ミクロン	年1回	年1回	1件	22件	12件

全社員教育の状況

4.4 13.3

TMS (竹田マネジメントシステム) の効果的な運営を図るために、全社員に対して次のような教育を行っています。

2023年度の主な教育実施内容

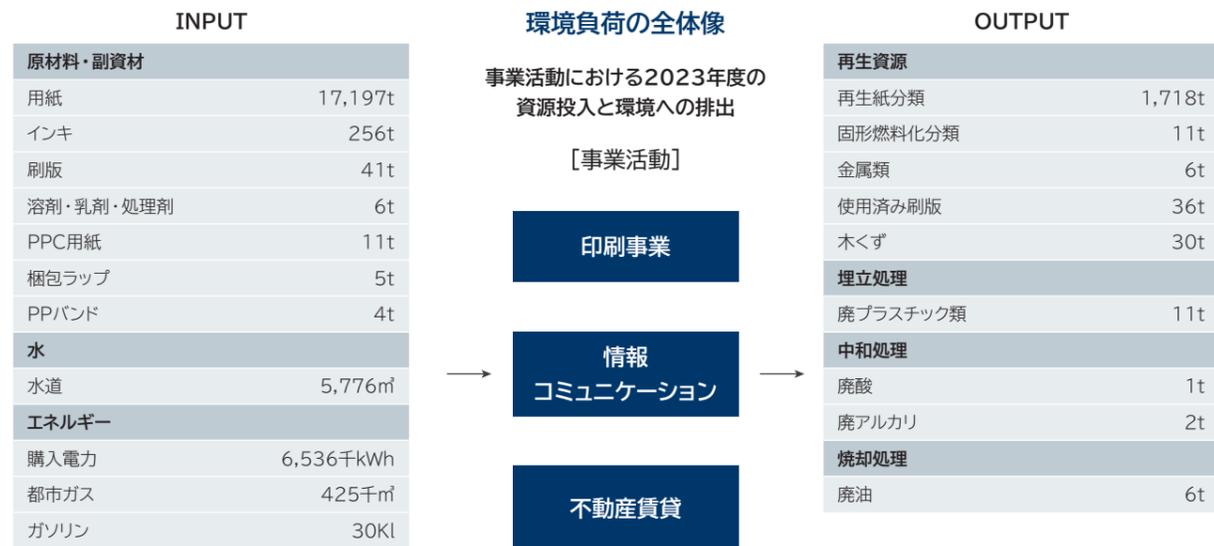
- | | | |
|---|---|--|
| テキストでの教育の後、理解度テストを行うことで教育効果を確認し、「教育実施記録」を保持しています。 | <input checked="" type="checkbox"/> FSC® (CoC) 認証の内容の再確認
<input checked="" type="checkbox"/> カーボンニュートラルと環境方針
<input checked="" type="checkbox"/> TMS文書の理解
<input checked="" type="checkbox"/> 人権の尊重と人権方針
<input checked="" type="checkbox"/> 健康経営 | <input checked="" type="checkbox"/> LGBTQ理解促進
<input checked="" type="checkbox"/> 個人情報管理
<input checked="" type="checkbox"/> ISO外部審査での指摘事項
<input checked="" type="checkbox"/> インボイス制度
<input checked="" type="checkbox"/> 腐敗行為と腐敗防止方針 |
|---|---|--|

環境保全の状況

法規制の順守

3.4 6.3 7.3 11.6 12.5 14.1 15.2

竹田 i Pホールディングスおよび竹田印刷では、環境に関する法規制を順守し環境汚染をできる限り少なくすることは企業の重要な責務との認識のもと、法的要求事項への対応実施・維持の状況を順守状況一覧表によりチェックし、順守の徹底を図っています。また、環境関連法令に従い、必要に応じて管理者を設置し、管理報告を行っています。苦情が発生した工場から排出される臭気に関しては、脱臭装置の交換を行い改善しました。



※竹田 i Pホールディングス(株)・竹田印刷(株)のデータ

プロセス・ラボ・ミクロン 有価物排出量 (2023/4~2024/3)

ステンレスやニッケルの廃材を有価物として再利用しており、廃棄物量の削減を推進しています。

	関東	九州	中部	合計(kg)	
ステンレス廃材※1	4,345	1,200	7,730	13,275	※1 レーザ加工メタルマスク製造時の端材、ADTメタルマスク製造時のニッケルめっき母材、回収メタルマスクの廃棄品 ※2 ADTメタルマスク製造時の端材、テスト品(条件出し用) ※3 ホルダ製造時の端材、メタルマスク用枠の廃棄品 ※4 エッチング加工メタルマスク製造用、メタルマスク検査用などのLPPフィルム ※5 ニッケルめっき用治具の使用済み廃材 ※6 エッチング加工用のエッチング液の廃液
ニッケル廃材※2	115	500	1,000	1,615	
アルミ廃材※3	1,490	170	795	2,455	
廃フィルム※4	1,692	491	-	2,183	
ニッケル廃材+銅※5	-	210	760	970	
塩化第二鉄廃液※6	81,600	35,260	-	116,860	

取水によって著しい影響を受ける水源

6.1

竹田印刷は、事業を行う上で必要な水をすべて「水道」から取水し使用しています。地下水の揚水はなく、当社の事業活動における取水によって著しい影響を受ける水源はありません。

地域の環境保全条例と政策への対応

3.9 7.3 11.6 12.4 13.1

竹田印刷は、各地方自治体の条例に基づき、地球温暖化対策に関する計画書などを作成し、各地方自治体に提出しています。

気候変動リスクへの対応

13.2

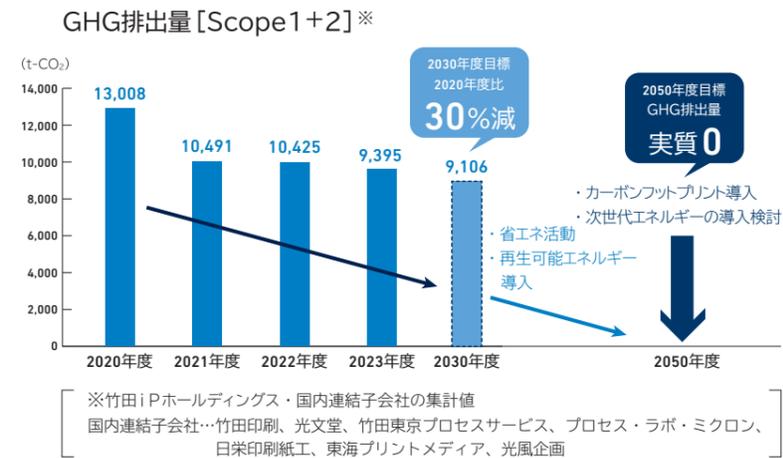
竹田 i Pグループは、「気候変動リスク」を優先的に取り組むべき課題として認識しています。

中長期的には「気候変動リスク」により、カーボンプライシングの導入による操業コストの増加や温室効果ガス(GHG)排出規制の強化による対応コストの増加などの移行リスクが生じる可能性があり、異常気象の激化による操業停止や気候変動による材料調達コストの増加などの物理的リスクが生じる可能性もあり得ると考えています。

このような課題に対応するため、竹田 i Pホールディングスは温室効果ガス(GHG)排出量の削減に向け、2023年6月開催の取締役会にて、竹田 i Pグループ温室効果ガス(GHG)排出量削減の中長期目標として、“2030年度までに2020年度比30%以上の削減・2050年度までに排出量実質ゼロ”を目指すこととし、国内主要グループ会社各社の温室効果ガス(GHG)排出量削減目標を決議しました。

温室効果ガス(GHG)排出量の実績につきましては、四半期毎にサステナビリティ推進室が当社取締役会に報告するとともに、リスク管理委員会を通じてグループ各社に展開し、排出量の可視化に努めるとともに目標達成に取り組んでおります。

なお、当社国内連結グループ合計の温室効果ガス(GHG)排出量(Scope1+2)は、下図のとおりとなっています。主な削減活動として、東海プリントメディア(株)において、オンサイトPPAモデルにより太陽光発電設備を導入して2023年9月26日より稼働を開始、日栄印刷紙工(株)においては照明器具の全面LED化を実施しました。日常の省エネ活動と併せたこれらの取り組みにより、消費電力の抑制を図っております。



※竹田 i Pホールディングス・国内連結子会社の集計値
国内連結子会社…竹田印刷、光文堂、竹田東京プロセスサービス、プロセス・ラボ・ミクロン、日栄印刷紙工、東海プリントメディア、光風企画

Scope 1

自社での燃料の使用や、工業プロセスによる直接的な排出

Scope 2

自社が購入した電気・熱等のエネルギーの使用に伴う間接的な排出

GHGとは: Greenhouse Gasの略。CO2などの温室効果ガスのこと。

環境保全活動の推進

工場排水処理策と測定状況

3.9 6.3 14.3

竹田印刷・竹田東京プロセスサービス(名古屋本社)は、排水量に関しては測定していませんが、水質について、PH(水素イオン濃度)、BOD(生物化学的酸素要求量)、SS(浮遊物質)、金属含有量、有害物質などの項目を年2回測定し、法規制値より厳しい自主管理値を設定し徹底管理。管理値以内であることを確認した上で、下水道に排水しています。

プロセス・ラボ・ミクロンでは、排水については年4回、自主分析で管理状況を監視するとともに、行政による定期水質検査を受けています。

化学物質管理

3.9 12.4 14.3

竹田印刷は、「化学物質リスクアセスメント規定」を定め、自主的な適正管理や安全性の高い代替物質への転換を促進するとともに、化学物質による労働災害の防止や廃棄物の拡散防止に努めています。またプロセス・ラボ・ミクロンでは、新規材料の採用時、SDS(安全データシート)の入手や規制法令等の確認などを行い、管理台帳に登録のうえ使用しています。

騒音・振動の予防策と測定状況

3.9

竹田印刷は、騒音・振動を防止するために、印刷工場は建築設計の段階から二重壁・二重窓構造にし、内壁には吸音材を使用した防音対策を施しています。騒音の測定記録については、全時間帯において規制基準値を下回りました。日栄印刷紙工でも、年1回の測定を行っています。

プロセス・ラボ・ミクロンでは、規制対象であるエアコンプレッサーがありますが、静音タイプを選定、設置方法や設置場所の改善により規制基準をクリアしました。

排出ガスの予防策と測定状況

3.9 11.6

竹田印刷は、大気汚染防止法のばい煙発生施設に該当しているオフセット輪転機の乾燥装置について、年2回の排出ガス測定を実施しており、法規制値より厳しい自主管理値を設定し徹底管理を行っています。また東京都環境局が推進する「Clear Sky サポーター」に登録し、大気環境の改善に向けた取り組みを進めています。

プロセス・ラボ・ミクロンでは、アスベスト対策を実施。本社・川越工場の建て替え工事も問題なく終了しました。また社用車の排ガス対応として「排ガス抑制の実施手順書」を制定しています。



廃棄物の管理・運営

3.9 6.3 11.6 12.4 14.1

竹田印刷・日栄印刷紙工は、「環境側面特定管理規定」を定め、それぞれ種類別に保管し、管理方法を定めています。特に特別管理産業廃棄物は、水質汚濁や土壌汚染を招かないように厳しく管理しています。また年に1回以上、産業廃棄物処理業者への立入り調査を行い、処理が適正に行われているかを目視により確認しています。

プロセス・ラボ・ミクロンでは、特別管理産業廃棄物の管理・行政届出、PRTR法に基づく対象物質の行政届出を実施しております。

緊急時への準備対応

3.9 11.6 12.4 14.1

事故・緊急事態に対する対策

竹田印刷では、事故・緊急事態の可能性として「火事・爆発・漏えい（大気・水系・土壌）など」を想定し、発生した場合の環境への重大な影響（大気汚染・水質汚濁・土壌汚染など）を防ぎ、迅速に対応・処置するために「不適合及び緊急事態対応管理規定」を定めています。その中で、予防・初期処置および対処に必要な設備・防災備品の設置のほか、連絡網の明示・模擬訓練の実施・発生時の基本行動などについて定めています。

2023年度事故・緊急事態

2023年6月15日の夜間、プロセス・ラボ・ミクロンの九州工場にて、廃液が構外へ流出する事故が発生いたしました。行政機関の指示に従うとともに、再発防止対策を実施しました。今後は全工場でも事故発生防止を徹底してまいります。

FSC® CoC認証~Forest Stewardship Council® (森林管理協議会) ~

15.2 15.4

竹田印刷および日栄印刷紙工は、FSC® CoC認証を取得しています。

〈竹田印刷〉ライセンスコード：FSC-C011109 認証取得日：2004年8月12日

〈日栄印刷紙工〉ライセンスコード：FSC-C152770 認証取得日：2019年12月1日

すべてがFSC® 認証品ではありません。FSC製品についてはお問合せ下さい。

FSC® は、森とそこに暮らす人や生物を大切にすることをお手伝いをします。



竹紙の提案

6.3 15.1 15.2 15.3

里山を荒らすことから、いまや“竹害”とまで言われる竹。その竹を持続的に大量に使うことで社会的課題の解決を図ります。針葉樹パルプと広葉樹パルプの中間的性質をもつ竹パルプは、印刷用紙から産業用紙まで幅広く活用できます。本サステナビリティレポートも、全ページ竹紙を使用しております。このようなできるだけ環境に負荷をかけない紙をお客様におすすめし、お客様自身の環境負荷低減に寄与してまいります。



Report

竹田 i Pグループの省エネ対策

■ 東海プリントメディア(株)

竹田 i Pホールディングスが、再生可能エネルギー発電事業を手掛ける三菱HCキャピタルエナジー株式会社様とオンサイトPPAモデル*により契約を結ぶかたちで、東海プリントメディアが操業する読売新聞清須工場の屋根に出力約199.8kW（パネル360枚）の太陽光発電設備を設置しました。太陽光で発電したグリーン電力を、新聞印刷などの工場の運営に活用し、電力使用量に応じた料金を工場側が三菱HCキャピタルエナジー株式会社様に支払う仕組みです。これにより、清須工場の年間消費電力の約7.8%が太陽光発電で賄われ、電力由来のCO₂排出量を年間約134t削減できる見込みです。

※オンサイトPPAモデル：太陽光発電を行う事業者が、需要家の敷地内に太陽光発電設備を設置し、そこで発電された電力を需要家に供給する仕組み



■ (株) プロセス・ラボ・ミクロン

2024年4月、本社・川越工場（埼玉県川越市）にて新社屋・新工場が竣工され、省エネ対策として以下を実施・導入いたしました。

- ・二重屋根（断熱材充填） ・複層ガラス（遮熱Low-E） ・LED照明 ・節水型トイレ ・キュービクルトップランナー変圧器
- ・熱交換型換気扇 ・シックハウス24時間天井換気扇 DCブラシレスモーター仕様

また川越テクノロジーセンターに、オンサイトPPAモデルによる自家消費型の太陽光発電設備を設置しました。導入契約を締結した株式会社TGパワー様が設備容量約DC198kWの太陽光パネルを設置し、太陽光で発電したグリーン電力をメタルマスク製造などの工場の運営に活用し、電力使用量に応じた料金を株式会社TGパワー様に支払うという仕組みです。これにより、電力由来のCO₂排出量を年間約80t削減できる見込みです。CO₂削減量を、“杉の木が1年間に吸収する量”に換算すると、約5,700本分に相当します（杉の木1本で年間14kgのCO₂を吸収）。



■ 日栄印刷紙工(株)

省エネ対策として、社屋の蛍光灯1,325本をLED照明に取り換えました。建物が消費するエネルギーの中で「照明」の占める割合は高く、LED化を実施することで建物全体のエネルギー消費量の削減効果がより高まります。電気料金が下がるほか、ランプ交換が不要なため省メンテナンス化を実現することも可能となりました。さらに、人感センサー機能搭載のLEDを取り入れることで節電にもつなげています。2023年度の売上は前年度よりも上がっているため電気使用量も増加しているはずですが、Scope2の排出量は-28.7%（前年比）となり、LED照明化もこの結果に貢献していると考えられます。

■ 竹田 i Pホールディングス(株)

室内の空調機に取り付けることにより、静電気障害による性能低下をなくし消費電力を削減する装置を、本社の業務エリアに設置しました。空調機自体を長持ちさせる効果もあり、温室効果ガス（GHG）排出量削減に総合的に貢献します。まだ竹田 i Pホールディングス本社にしか設置できていませんが、グループ全体での取り組みを目指しています。